１．研究主題

自他を認め、考えを深めることができる子どもの育成【国語科】

２．主題設定の理由

（１）今日的課題から

今日まで、社会は急速に変化しており、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、ＡＩの普及等を含む最先端テクノロジーの進歩等によって価値観が多様化してきた。加えて、コロナ禍によって社会の在り方や働き方、サービスの在り方等々、あらゆるものに新たな見方・対応の仕方が求められ、スタイルは多様化してきており、それによって価値観は一層複雑化し、先を見通すことが一段と難しくなっている。その中で、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極めて再構成し、新たな価値観につなげていくことができるようにすることなどが求められている。また、society5.0 社会に向けて、読解力や情報活用能力、自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力が必要だとされている。そのため、教育も大きな変革期を迎え、様々な教育改革が進められてきた。その基本理念となっているのが「生きる力の育成」である。それを受け、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開しているところである。そして、今後は、コロナ禍等の不測の事態も見越して、今後変化するであろうことを予測しながら、それらに柔軟に対応できる力を育成しなければならない。

国語科においては、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」を目標としており、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことが重要である。そのためには、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、「読むこと」に関する基本的な国語の力を定着さていくとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を通して、考えを表現し、新たな考えを創り上げていく力を育成していく必要があると考えられる。

そこで本校では、系統的に国語科の知識・技能を習得させていくとともに、さまざまな問題や課題に対して必要な事柄を集めたり、既習の事柄と組み合わせたりするなど、主体的に課題解決へと向かっていくことができるような児童を育成することを目指していくこととする。また、伝え合う活動を通して他者との考えを比較、検討、交流などを行い、自分の考えをさらに深めることができるような児童を育成することを目指していきたいと考え、本主題を設定した。

（２）学校教育目標から

本校の児童が、夢や希望をもって健やかに成長していくことをめざし、時代の変化に伴う学校教育の課題や保護者、教職員の願い、地域、児童の実態に対応した教育を推進するために、次のような教育目標を設定している。

教育目標	児童のめあて
・心ゆさぶる感性	・のびのび語り合う子
・学びを求める知性	・ぐんぐん学び合う子
・生き方を磨く感性	・もりもり鍛え合う子

（３）これまでの研究成果・児童の実態から

これまでの研究の成果から、学習課題を集団で解決していこうという意識の高まりや支持的風土が根付いてきており、豊かな話し合いが、共同的な学びにつながっていくという基盤が出来上がってきている。

一方で、自分の考えや思いを満足ができるように説明（表現）する力には依然として弱さや課題が見られ、語彙量の不足が一因ではないかと考えられる。また、既習事項を活用し、課題を解決していこうとする力についても十分とは言えない。加えて、下位層の児童にとっては、一単位時間の中で十分に「わかった」という実感を得られるまでには至らず、教師の支援（方向付け、サポート）を受けながらじっくりと取り組ませる必要があったと考えられる。

以上のことから、今の本校の児童に求められているのは、課題に対して自分の考えをもって、お互いの考えをわかりやすく伝え合い、よさや違いなどを受け止めながらより自分の考えを深め、新たな考えに気づいていくことではないかと考える。

そこで、平成 31 年度からは、

「自他を認め、自分の考えを深めることができる子どもの育成【国語科】」

と設定し、2 カ年計画としてスタートさせた研究だったが、新学習指導要領の全面実施、コロナ禍の影響等を鑑み、４カ年計画に変更し令和４年度まで継続することとした。研究内容１では、「基礎的・基本的な知識・技能の定着（習得）」について、研究内容２では「新たな考えを見つける表現活動の工夫（活用）」について取り組み、主題へと迫った。

３．めざす子ども像

研究主題を具現化するために、主題に照らし合わせて、本研究のめざす子ども像を具体的な姿として設定した。

研究主題

自他を認め、

考えを深めることができる子ども

めざす子ども像

○自分の考えをもてる子
○自分の考えをわかりやすく伝える子
○相手の考えを受け止められる子

○新たな考えに気づく子
○集団の中で学び合う子

４．研究仮説

（１）ことば（語彙）を豊かにし、根拠をもとに適切に文章を読み取らせる指導の工夫を図ることによって、自分の考えをもち、分かりやすく伝えたり、相手の考えを受け止めたりすることができる子が育つであろう。

（２）習得した知識・技能を活用するための表現活動を指導計画に位置づけ、考えを共有する場の設定や効果的な振り返りを図ることによって、集団の中で学び合い、新たな考えに気づくことができる子が育つであろう。

５．研究内容

（1）基礎的・基本的な知識・技能の定着（習得）

①国語科における基礎・基本の定着

ア　適切に文章を読む力の育成

ｉ）学習用語の習得

ii）１０の観点の活用

イ　ことば（語彙）の増加

ｉ）豊かな言葉ドリルの活用

ii）言葉帳の作成

ウ　身に付けさせたい力の明確化

ｉ）単元での児童に身に付けさせたい力

（２）新たな考えを見つける表現活動の工夫（活用）

①表現活動

ア　他者の考えと交流、比較、検討を行っていける場の設定

イ　自分の言葉で表現できるような表現活動の工夫

②振り返り（自己評価・相互評価）

単元の中で振り返り（自己評価、相互評価）などを位置づけること。

・自己評価：児童自身が評価の主体となって学習を振り返ること

・相互評価：児童同士が互いを評価し合うこと（良さを認め合う）

③指導計画の工夫

６．研究を支える土台

（１）ユニバーサルデザイン（UD）の視点を取り入れた学習環境

①学級づくり（環境面）

ア　場の構造化

イ　視覚刺激量の調整

ウ　学習や生活のルール

エ　支持的風土のある学級

②授業づくり（学習面）

ア　授業の構成

イ　指導言

ウ　板書

エ　教材・教具

７．研究の全体構造（４か年計画）

【学校教育目標】

◎心ゆさぶる感性：のびのび語り合う子　◎学び求める知性：ぐんぐん学び合う子　◎生き方磨く個性：もりもりきたえ合う子

経　営　の　重　点	小中９年間でめざす子ども
１．小中一貫教育の推進 ２．基礎・基本の確実な習得とその活用による学力の向上【知】 ３．豊かな人間性と強い精神力の育成【徳】 ４．体力の向上と健康安全教育の推進【体】 ５．一人ひとりを大切にした特別支援教育の充実	「知・徳・体をバランスよく備えた児童・生徒像の実現」 〇自らの力で人生をデザインできる子ども 〇しっかりとしたコミュニケーションができる子ども 〇地域を愛し、地域の良さを紹介できる子ども

【研究主題】

自他を認め、考えを深めることができる子どもの育成【国語科】

めざす子ども像

〇自分の考えをもてる子
〇自分の考えをわかりやすく伝える子
〇相手の考えを受け止められる子

〇新たな考えに気づく子
〇集団の中で学び合う子

研　究　仮　説

（1）ことば（語彙）を豊かにし、根拠をもとに適切に文章を読み取らせる指導の工夫を図ることによって、自分の考えをもち、分かりやすく伝えたり、相手の考えを受け止めたりすることができる子が育つであろう。

（2）習得した知識・技能を活用するための表現活動を指導計画に位置づけ、考えを共有する場の設定や効果的な振り返りを図ることによって、集団の中で学び合い、新たな考えに気づくことができる子が育つであろう。

研　究　内　容　１

基礎的・基本的な知識・技能の定着（習得）

①　国語科における基礎・基本の定着
　ア）適切に文章を読む力の育成
　イ）ことば（語彙）の増加、漢字の定着
　ウ）身に付けさせたい力の明確化

研　究　内　容　２

新たな考えを見つける表現活動の工夫（活用）

①　表現活動
　ア）表現の場の設定
　イ）表現活動の工夫
②　振り返り（自己評価、相互評価）
③　指導計画の工夫

研究の土台

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境